

富山市社会福祉審議会児童福祉専門分科会概要  
(第15回子ども・子育て会議)

1 開 会 (15時から)

(定員数：委員の過半数(10人)が出席すること。老月、棚瀬、富田、八木各委員欠席)

2 こども家庭部次長挨拶

3 議 事

(1) 子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査の結果について

・子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査の結果について、資料2に基づき内容を説明

【主な意見等】

委 員 今回のニーズ調査の結果を受けて、本当に必要とされている子育て支援とは何なのか、事務局ではどのように考えているか。

事 務 局 幼児教育・保育の無償化も始まることから、特に未就学児において保育の量を確保することが大事であると考えている。病児・病後児保育事業などについてもしっかりとPRしていきたい。

また、就学児童の放課後の受け皿についても、しっかりと確保していきたいと考えている。

委 員 幼児教育・保育の無償化について、国の考えている制度では、昼間に保育を利用している人が夜も利用した際、夜の方は無償化の対象外になると理解している。本当に困っている人が助けられないのではないか。

県は今回の無償化について、当初予算に見込んでいるとのことだが、市は補正対応すると聞いている。その辺はどうなのか。

事 務 局 幼児教育・保育の無償化については、現在国において審議中であり、特に子育て支援事業、幼稚園の一時預かり事業、認可外保育施設に対し、どこまでを無償の範囲とするのかなどの詳細な制度設計が示されていないことから、今後示される国からの情報等を注視し、しっかりと対応していきたいと考えている。

委 員 就学前児童の母親の就労状況が5年前と比較して7.7%も上昇している。富山はもともと母親の就労率が高いと言われているが、その中でもこれだけ上昇しているということで、保育の需要が高まっていることが非常に顕著に表れている。また、施設をどれだけ整備しても保育の担い手が足りないことが大きな問題である。保育の必要量だけでなく、保育の質も非常に大事なので、そこを確保できるような取り組みが重要である。

委員 母親の就労状況において、フルタイムで就労しているが、産休・育休などで休業中であると回答した人の割合は5年前と比較してほとんど変わっていないが、育児休業を取得したとことがあると回答した人は大幅に増加している。これは育休を取得している人は増えているが、短期的な利用が増えていると解釈できるか。

事務局 そういった考え方もあると思うが、まだ分析できていないので、改めて回答させていただきたい。

委員 今回のニーズ調査の結果を富山市もしっかりと受けとめて事業を進めてもらいたい。

子どもが健やかに育っていくためには、遊び場や住環境整備の取り組みが大事だと考えている。近年、子どもが遊ぶ場所や、親子で手を繋いで散歩する場所などが少なくなっている。いろいろと考えてもらいたい。

委員 子育てに関する施策の期待度について、子育てに関する経済的支援を望む声が多いが、何でも支援すればいいというものではない。保護者がしっかりと子どもを育てるという意識が大事なのではないかと思う。

委員 母親の就労率が非常に高いという結果が出ているが、長期休暇期間中の地域児童健全育成事業・放課後児童健全育成事業について、就学前児童の保護者の利用希望に対して、就学児の保護者の利用希望は少ない状況である。実際に小学生が長期休暇期間中にどのように過ごしているのか把握しているか。

事務局 児童館なども過ごし方の一つとして考えられる。

委員 母親の就労状況及び育児休業制度の利用状況について、ほとんど0～2歳児が対象だと思うので、就学前児童という単位ではなく、年齢別で集計をしないと正確な情報にならないのではないか。

委員 富山市の子育て支援はとても進んでいると感じている。子育てにおいて苦勞するということは必ずしもマイナスになる訳ではなく、恵まれすぎている状況を作るのがいい訳ではない。経済的支援もやりだしたらそれが当たり前になり、どんどん肥大していくのでキリがない。そういうところも考えていかなければならないと思う。

## (2) 私立保育所等補助事業の実施について

・平成31年度の私立保育所等補助事業の実施について、資料3に基づき内容を説明

### 【主な意見等】

- 委員 小規模保育施設については、3号定員のみなので、3歳未満児のみの受入れになると思うが、3歳になったらどうするのか。
- 事務局 連携施設に移行するか、保護者の希望によっては他の園に転園することになる。

## (3) その他

- 委員 消費税増税分の一部が幼児教育・保育の無償化に使われるということで、しっかりと制度を実施していかなくてはならない。他分野からも厳しい目で見られているところである。保育の受け皿の拡充も確かに大事なことではあるが、教育・保育の質を担保することが求められている。
- そうしたなか、県教育委員会に幼児教育センターが設置される。実際に現場経験の豊富なスタッフが各施設に助言・指導されると聞いている。
- 富山市においても教育・保育の質の確保はしっかりとしてもらいたい。
- 事務局 少子化は今後も進むと考えているが、3歳未満児は認可保育施設等の利用率が半分程度であり、まだまだ利用率が上昇することも想定される。
- そういう意味でも教育・保育の質の確保は大変重要であると考えており、市としても研修などを実施しているほか、各種団体とも連携しながら質の確保に努めてまいりたい。